

# あかしん

わが町、わが店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション あかい新聞店ホームページ <http://www.akai-shinbunten.net> <発行所>あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎<0569>72-0356 常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎<0569>35-2861

企画・制作：株式会社 新聞ビル

クロスメディアを総合力でプロデュースする

**PTC GROUP**

**半田中央印刷株式会社**

〒475-0032 愛知県半田市潮干町1番地の21  
TEL 0569-29-2525 (代) FAX 0569-29-4500  
<http://www.handa-cp.co.jp>

## 元氣のでてくる“ことばたち”

242

### 村上信夫



撮影・中川真理子

白駒妃登美さんは、博多の歴史女と呼ばれる。飛び切りの笑顔で、わかりやすく話す歴史のエピソードが好評で、講演依頼が引きも切らない。

### 希望を抑えきれない

#### 白駒 妃登美さん

##### 江戸に教わる

先日、江戸深川資料館で、江戸をテーマに鼎談したとき、白駒さんをお招きしました。最初、山本一力さんの話に聞き入っていたが、着物の話になると俄然スイッチが入った。

江戸時代の庶民は着るものの色が決まっていた。徳川幕府は、庶民が着るものを生地を指定した。綿か麻しか着てはいけない。

幕府の天領だった飛騨高山には、幕府から派遣された行政を司る人がいたが、悪代官のような人はせいぜい一人か二人だったとか。

「そんなに低い確率なのに、時代劇は大げさですすね。江戸の町には一〇〇万人を超す人が暮らしていたのに、いまでいう警察業務に携わっていた人がものすごく少なくて、殺人事件もほとんどなかったそうです。」

古事記を読むと「知らず」という言葉が出てくる。これは力づくで相手をねじ伏せるのではなく、慈しみや愛の力をもって民を治めるといふ意味で、天孫降臨の際、アマテラス



俳画/イネ・セイミ

#### ■村上信夫プロフィール

2001年から11年に渡り、『ラジオビタミン』や『鎌田實いのちの対話』など、NHKラジオの「声」として活躍。現在は、全国を回り「嬉しい言葉の種まき」をしながら、文化放送『日曜はがんばらない』（毎週日曜10:00～）、月刊『清流』連載対談～ときめきトークなどで、新たな境地を開いている。各地で『ことば磨き塾』主宰。1953年、京都生まれ。元NHKエグゼクティブアナウンサー。これまで、『おはよう日本』『ニュース7』『育児カレンダー』などを担当。著書に『嬉しいことばの種まき』『ことばのビタミン』（近代文藝社）『ラジオが好き!』（海竜社）など。趣味、将棋（二段）。  
<http://murakaminobuo.com>

色も派手な色ではなく、鼠色、茶色、お納戸色にせよと規制した。納戸を開けると、暗いけど真っ暗闇ではない。その薄暗がりの色をお納戸色と呼んでいた。いまでいうと濃紺や藍色に近い。

「普通は三色限定だと個性がなくなってしまうが、粋な江戸っ子は三色の中で自分らしさを極めようとした。微妙な色の違いで、茶色、鼠色それぞれ一〇〇色以上あったそうです。『その色はナント力鼠だね』とかいって楽しんでんだです」

「団十郎が好んだ茶色を団十郎茶、千利休が好んだとされる利休鼠、ほかに、桜鼠とか自然界からとった呼び名も多いです。また、表からは見えない着物の裏地に高価な絹を使ったり、鮮やかな色を用いたりしたそうです。見えないところに贅を凝らすとか、日本人の遺伝子には、そういうものを嗜好する何かがあるのかもしれないね。」



好評発売中

がニギノミコトに言ったとされている。日本人はその神話を信じ続けた。リーダーたちは品性を磨いて徳を積み、だから民はリーダーに甘えることができた。それが神話の時代から脈々と続いてきた。日本人は「和をもって尊し」となってきた。日本人は仇打ちにしても、どこかに惻隱の情があり、殺したほうは死者に弔いの気持ちを示した。白駒さんは「先のことばはまったく悲観していません。例えば、新幹線のお掃除が停車中の七分間ですべて終わられるのは奇跡だ、世界的に有名になりました。もちろんお掃除チームもすばらしいんですが、これは日本人みんなが起した奇跡だと私は思っています。もしも乗客が車内を汚し放題だったら、七分では終わりません。みんながきれいに使っているからできること。そんな日本人がもつ美德を多くの人が自覚すれば、先は明るいと思います」と笑顔で言い切った。

#### イネ・セイミプロフィール

フルート奏者として活躍中。俳画家。絵画を幼少より日展画家の（故）川村行雄氏に師事。（故）川村行雄氏に師事。（故）村松一平氏に師事。俳画の描法をもとに、少女、猫等を独自のやさしいタッチで描いている。個展多数。



#### 俳画教室開講中

ところ 常滑屋  
とき 俳画教室月二回 午後一時三十分～三時三十分  
会費 一回、一、二五〇円（三ヶ月分前納制）  
問合せ ☎〇五六九（三五）〇四七〇

#### インディアンフルート教室開講しています

誰でも簡単に音が出せる楽器です。あなたも今日からインディアンフルート演奏家を目指しませんか？

会場 マツイン楽器店  
時間 隔週木曜日（月2回）  
10:00～11:00  
形式 グループ  
会費 1ヶ月8,802円（入会金15,400円）  
詳しくはマツイン楽器店本社 教室係まで  
フリーダイヤル：0120-37-5576

講師 イネ・セイミ  
（日本インディアンフルート協会ディレクター）  
ネイティブアメリカンのスピリットが感じられる  
インディアンフルート。その音色はやさしく心に響きます。  
1レッスン・30分4,000円 会場・半田市潮干町  
申込み 0569-89-7127  
お問い合わせ ine.seimi.jp@gmail.com



新シリーズ ヒューマンライフ

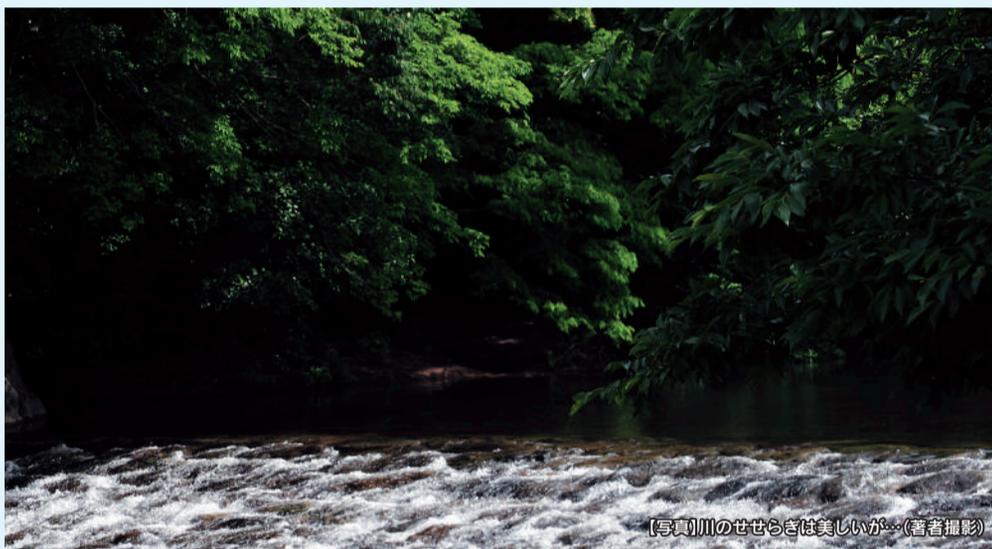
『新・現代家庭考』就職

—自分ドラマつくろう— (92) 岡田 清治

姪の就職2

「だいたい日本語の字は複雑すぎるよ。日本人にもね」  
 「その点、アルファベットは楽だよな」  
 「それにしてもパソコンでよくぞワードをつくってくれました」  
 「そうだよな。ノーベル賞ものだと思うね」  
 「いづれにしてもインターネットの弊害はあるが、便利になったものですね」  
 「弊害と言えば、ゲーム中毒も心配なようですね」  
 「そのようだね」  
 「私の息子のころに流行りだしましたが、家ではゲームを買っていなかったで、息子は友達の家でやらしてもらったようで、中毒にならずに済みましたが…」  
 「中毒になると、回復するまで大変ですね」  
 「親も一緒になる人もいますね」  
 「漢字への変換は大半が訓読みで行うが、「春」とか「夏」のように音訓両方とも変換できる。知っている漢字でも訓読みがわからないと、辞書に相談するので時間がかかる。息子も自分なりの漢字を打ち込んで登録しているが、多少、漢字の勉強になっているように思える」  
 「真三は息子と話し合う。」  
 「僕にもやらせて…」  
 「富士山はまだ登録していないね」  
 「まだだよ」  
 「最後に登録リストを見せてよ」  
 「登録を終了すると、これまで入力した単語、熟語がすべて画面に現れる。」  
 「これ僕の漢字だ」  
 「まだ全部で423個か、少ないね」  
 「この程度の単語数では文書作成の場合、便利だと思っまではいかない。字数だけでも3千もあるのだから万のオーダーにならないとダメなんだろうと思う。」  
 「前島とママは時々、つまみを口に運びながら真三の話を耳を傾けている。」  
 「真三さん、マイコンというのはどのようなものですか」  
 「要するに外国語を勉強するようなことに似ている」  
 「そうですか」  
 「考えてみると、英語を中学生から高校、大学、社会人になってもやっていると、どうだろう」  
 「とても外国人と対等に話ができるレベルにはほど遠い」  
 「私も日常会話程度です。第二外国語のドイツ語になると、日常会話もできない。外国語をこれだけやっても話せるレベルは知れています。マイコンも同じですね」  
 「日本語でも方言で話されると、まったく通じないですが、マイコンも極端な言い方をすれば、まったく通じない。だからマイコンの一般論を聞いても、実際にはほとんど役に立たない」  
 「レコード盤なら買って帰ると、メカに弱い親父でもすぐかけられるが、マイコンはノイローゼになりますね」  
 「真三さんが取り組まれた顧客管理ですが、生命保険会社で同じような話を聞きました」  
 「前島が話した。」

「生保にとって顧客管理は大変重要ですよ。本社の大型コンピュータにソフトがありますが、それだけでは万一、災害でビルが崩れた時に失ってしまう心配があります。そこで予備をつくり、違う場所に厳重に保管しているんです。このためコンピュータは結構、コストがかかるんです」  
 「個人も同じです。企業のように住まいが崩れたときの」



（写真）川のせせらぎは美しいが…（音響撮影）

※この物語に対する読者の方々のコメント、体験談を左記のFAXかメールでお寄せください。  
 今回は「就職」「日本のゆくえ」「結婚」「夫婦」「インド」「愛知県」についてです。物語が進行する中で織り込むことを試み、一緒に考えます。  
 FAX：0569-34-7971  
 メール：takamis@akai-shinbun.net



■プロフィール  
 著者：岡田清治おかせいじ  
 一九四二年生まれ ジャーナリスト  
 （編集者ロダクシオンNET108代表  
 著書に『高野山開創二百年 いっ  
 ぱんさん行状記』『心の遺言』あな  
 たは社員の全能力を引き出せませ  
 か！』『リヨンで見た虹』など多数

「真三さんは情報を大事にされているからですね」  
 「誰でも情報は大事ですよ。昔、親父が住所録を写して保管していたのを思い出しますが、人は予備をつくることによって安心するんですね」  
 「手書きでは大変ですね」  
 「これもパソコンができて以来、バックアップといって情報の保存を促しています。ソフトの予備、そしてそのソフトを使っていたデータ入りの予備、最低二つのディスクセットを普段、まったく使わない状態で置いておかなければならないのです。ディスク一枚1,000円もします。便利さを求めるということはお力がかかるということです。企業ならコストを下げるために機械化、コンピュータ化した方がメリットはあるだろうが、個人ではそう簡単にメリットは出てこない」  
 「真三は仕事帰りにマイコンを買った店に立ち寄った。そこで専門学校でマイコン教室生徒募集のパンフレットを手にとった。ベーシックコースから国家試験受験準備コースまで週3回の4コースが記載されている。学費は入学金1万円と合わせて9万円とある。時間は午後6時30分～8時30分だからサラリーマンの真三には続けられない。」  
 科目（マイコンとは）についての内容…マイコンコンピュータとマイクロコンピュータ、マイコンの現状と応用、マイコンの近未来とその発展、ソフトウエア、ハードウエア、ファームウエア、何故のCなのか？、各種プログラミングの言語比較、さらに科目としてプログラム（C言語を用いて）、マイコンの中身となっている。  
 真三はベーシックを基礎からみっちり学ぼうと思ったからおカネと時間が十分でないというところであることを知った。しかも第3外国語をマスターする根拠がある。当時、40歳の真三には絶望的だった。行政と産業情報センターの共催で行うマイコンスクールもあるが、これは中小企業を対象としたもので3分の1以下の費用で受講できる。ただ内容的には大学の理工学部か工業高校出で実務経験者が対象になっている。要するに専門分野は市の催しでも費用と時間はかかる。  
 この日、店のフロッピーコースの教室に申し込んでいた。参加者は真三と合わせて4人だけで、見たところ30～40歳のサラリーマン風である。  
 「この中でフロッピーをお持ちの方は何人おられますか」と講師がたずねた。  
 手を挙げたのは真三だけである。  
 「フロッピーも慣れてくると難しくありませんので、ぜひマスターしてください」  
 講師の話だと、前日から各デスクにマイコン、CRTディスプレイ、フロッピーを4組準備したという。受講者の一人はPC-9800を会社で使用。真三の持っている機種の上の機種で、後の二人は富士通のFM7を自宅で使用している。教科書は『仕事に役立つ実践BASIC』を用いる。フロッピーの概念はこの講座でつかめる。ただシーケンシャルファイル順次読み出しファイルの作り方については、その時は理解できたつもりでも、自宅でやってみるとうまくいかない。講習は午後5時まで続いた。  
 この講師がマイコンについて余談で話した時に、メーカーのなかには一つのモデル機種を売り出しても他のメーカーの動向を見て、すぐに新機種を出すところがあるが、このあたりはよく観察して買うことが大切だという。たえずモデルチェンジされるとユーザーが迷惑する。またマイコンを買いたいと言ったが、何に使うのか目的をはっきりさせないと選択が難しいのだ。自動車でも荷物を運ぶのか、スピードを楽しみたいのかといったように用途に応じて選ぶように、マイコンでも目的に応じて機種を選択すべきだという。もともと真三に言わせれば、自動車のようにイメージがはっきりしないので選択に困るわけで、普通ならゲームもしたいし、ビジネス用にも使いたいと広範囲の用途を考えるのが自然で、とくに個人使用の場合はそうである。沖電気のようにはビジネス専用機種に限定しているところは、プログラムを作りやすいようにできているという。機種別のソフトとその内容を説明したパンフレットをメーカーは準備すべきだ。これは今流行のスマフォでも同じで、書店で売っている書籍を買わなければ、商品に付いている説明書だけではほとんど役に立たない。書籍は決して安くなくリスクが少なくない。ソフトも広範囲の機種に使えるよう、メーカーは考えるべきである。同じメーカーでもゲームソフトが使える機種とそうでないものも少なくない。ましてメーカーが違えばどうにもならない。  
 最近、総務省はスマフォの2年間縛りや通信費の値下げを要請しているが、社会主義国でないのだから通信業者、メーカーはもっとユーザーの立場に立ったことをしないと、世界から取り残される。  
 「確かに消費者が置き去りにされているように思えますわ。果物でも家で食べる時に中身が腐っているときがあります。面倒なのでそのまま捨てることも多いですが、返品するには領収書が必要ですし、時間や交通費を考えると、料金の返済だけでは納得できないことがあります」  
 「メーカーや流通業者、スーパーなど大量販売をするために商品を雑に扱っているように思える時がありますね」  
 「やはり過当競争の影響ですか」  
 「そうですね。これから人口減がいろんなところに弊害をもたらすと思いますよ。どうしても人手不足のため従来通りのサービスを維持できないのです」  
 「モノだけではないですね。介護や老人ホーム、病院など命にかかわるところでも人手不足は深刻になっています」  
 「だから海外からの移住者を政府は緩和しようとしていますね」  
 「そうですね。日本も欧米並みに移民政策を考えなければならぬ時代が来るでしょう」  
 「今は観光客の増加に喜んでいますが…」

絵手紙 第二集

# わたしの 好奇心 心

絵文 縦山善久

返文 小林玲子

縦山善久

昭和十一年碧南市で生まれる。  
丸栄陶業株式会社代表取締役。  
碧南商工会議所会頭。  
愛知県陶器瓦工業組合理事長。  
全国陶器瓦工業組合連合会理事長などを歴任。  
平成十三年藍綬褒章受賞。  
平成二十二年旭日小授章受賞。  
丸栄陶業株式会社取締役会長を経て相談役に。  
京都造形芸術大学・通信教育部芸術学部美術科・  
洋画コース大学院修士課程修了。  
平成二十九年六月碧南市藤井達吉現代美術館にて  
初の作品展開催。社名を栄四郎瓦株式会社に変更。  
独立美術展 入選二回  
岡崎信金資料館にて第二回個展開催

小林玲子

碧南市に育つ。  
西尾市在住  
共著「西尾の民話」  
童話「サケの子ピッチ」  
随筆「海辺のそよ風」  
(中経コラム「閑人帳」より)  
ミュージカル脚本  
「みぐりちゃんのおうち」  
童話集  
「タアタとバアバのたんけんたい」



対馬藩主家菩提寺・万松院

小春日や  
海が舞台の  
対馬かな

危岐から対馬へと旅は続く。島は  
山林が多く、天然記念物ウツンマ  
ヤマネコが、現在百頭前後保護さ  
れている。釜山迄海上四九キロを  
隔て、海が大陸とのかけ橋であり、  
対馬を寄港地として、遣唐使や  
遣唐使は命がけでこの海を渡った。  
日本との親善使節、朝鮮通信使は  
対馬を治めていた宋家がその舞台の  
裏を支えたが、菩提寺萬松院の  
見事な大杉と墓石には敬慕される。  
島の歴史民俗資料館は韓国人で  
賑わい、街にはハングル文字があふれ、  
異国情緒漂う対馬であった。

御絵手紙嬉しく拝受致しました。  
本土の社寺とは異なる雰囲気のお絵が、  
対馬を語ります。  
釜山まで海上四九キロとは。  
今なら車で一時間ですが、海上交通は  
命がけ。それでも人々は往来したのですね。  
その勇気と情熱には、本当に敬服します。  
国と国との結びつきは、人間に始まり、  
人間に終ります。  
昔に思いを馳せ、只今の国交関係を、  
英知で解決したいものです。  
乱筆のまゝ、御礼までに

かしこ



